

平成29年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成29年7月4日（火）午後6時～
- 会場 大楽毛生活館
- 出席者 25人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

○将来を見通したまちづくり

- ・ 釧路市の台所事情
- ・ 釧路市の人口推移
- ・ 雇用を生み出す産業の強化
- ・ 子どもを生み育てたいという希望をかなえる
- ・ 「世界一級の観光地」を目指して
- ・ 阿寒湖アイヌ施策の推進
- ・ 安心な暮らしをつくる
- ・ 人口減少に対応した地域をつくる
- ・ 釧路市まちづくり基本構想等の策定について

〔事前調査による地域からのご意見等〕

■都市計画道路の整備について

都市計画道路の見直しについて、大楽毛駅前通の釧路新道への立体交差計画は、どのようになるのか。また以前に行われた道路の説明会で、星が浦から鶴野に抜ける計画道路は必要性が低いとの話があり、その後、市政懇談会でもう一度あり方について検討するとの話が合った。その後の検討の結果について聞きたい。それから、鶴野支援学校前の通りは片側1車線の狭い通りであり、トラックの往来が多く危険である。今後国際バルク港湾が稼働するとますます大型車両の往来が多くなる。道路の拡幅など安全確保をできないものか。また計画はないのか。

【総合政策部長】

大楽毛駅前通の釧路新道との立体交差計画は、都市計画道路として存続させる方針です。星が浦西通の星が浦から鶴野に抜ける区間につきましては、都市計画道路としては、市街化区域になる見込みがなくなった市街化調整区域内の計画区間であり、また、釧路新道との接続は星が浦北通など他の路線で対応できることから、位置付けの必要性は低いものと受け止めております。

避難路としての防災上の必要性につきまして、関係各課と改めて協議いたしました結果、徒歩による近隣の高い建物への避難が原則であり、また、釧路新道への接続に係る避難路につきましては、支援学校前の通り、及び鶴野小学校へ抜ける通りの2本が指定されており、ご理解をお願いいたします。

■大楽毛南地区の恒久的な避難施設等の設置の見通しについて

大楽毛南4丁目から5丁目には、約350世帯、700人が住んでいる。万が一、大津波が発生した場合、「マイカーを使用して阿寒方面に避難する」となっているが、瞬時に多数の車両が踏切、三叉路を通過できるとは考え難く、安全に避難できない。暫定的な対策と、恒久的な対策を早急に立てていただきたい。

【防災危機管理監】

大楽毛避難困難地域の解消に向けた取り組みは、急務と考えております。しかしながら、国の中央防災会議の予想津波高の見直しに伴う、新たな津波シミュレーションの浸水予想が現時点においては不明であり、抜本的なハード対策を進めることは難しい状況にあります。このため、まずは引き続き国の動向を注視することが必要であり、この間、地域からのご提案である、公共施設の複合化に関する検討の素材のひとつとしながら、避難困難地域の解消に向けた準備作業を継続してまいりたいと考えております。

●意見交換

【参加者A】

星が浦北通の車の往来が激しいです。鶴野地区の住宅は増えていないものの、西港から来るトラックは増え、狭い道路を走っています。バルク港湾として本格始動したら、さらに増えるのではないのでしょうか。

【総合政策部長】

釧路都市圏の都市交通マスタープランを策定する中で、平成22年に交通量の調査をしました。平成22年の10年後、20年後を見通しての交通計画ですが、現在支障があるという状況は把握できておらず、現行の道路で飲み込めるものと考えております。

【参加者A】

その交通計画は、国際バルク戦略港湾の選定を見越しての計画ですか。

【総合政策部長】

国際バルク戦略港湾の選定も考慮して、判断しています。

【参加者A】

星が浦北通のトラックの往来が増えているのは事実です。鶴野支援学校の先生方も危ないと言っていました。星が浦北通の拡幅計画があるのかどうかお聞きしたい。

【都市整備部長】

大型車の往来が多い場合は、舗装構成が変わってきます。道路の車線数は計画交通量で決まってきます。計画交通量が増えない中でも、大型車混入率が高い場合は、路肩を広くしたり、舗装構成を厚くしたりするなど、今の状況に合っているか確認し、検討してまいりたいと思います。

【参加者B】

カジノ（統合型リゾート）の導入も良い案だと思います。北海道で選定されるのは1カ所だと聞いているが、どういう見通しでしょうか。また、空き家対策についてですが、星が浦南5丁目にも危険な空き家が数件ありますが、補助の対象になるような感じでしょうか。

【市長】

統合型リゾート（IR）の導入については、北海道で、釧路市、苫小牧市、留寿都村の3カ所が手を上げています。国の方でも、何カ所でどのようにやるかというのは、まだ明確には何も決まっておりませんが、北海道に持ってきたいと要請活動をしているところでもあります。過日の新聞等によりますと、IRの運営会社を決めてから、どこで何をやるか決めるというような案が出てきているようです。しかし、そのやり方だと、都会しか選ばれず、地域の特色を活かしたIRができないと思いますので、国にはしっかり要請していきたいと思います。阿寒湖温泉地区に設置したいと考えているIRは、豊かな自然や伝統文化と共存した、小規模ながら様々なリゾート機能をもった複合施設を考えており、収益としては低いと思います。

【都市整備部長】

星が浦南5丁目の空き家の詳細については分かりませんが、不良空家等除却補助金について説明しますと、除却工事費の1/3の額で最大30万円まで、今年度は5件の予算措置をしておりました。しかし、現在12件の応募があり、ここできちんと対策を取ることが今後の空き家対策に繋がると考え、財政部署と検討した結果、10件まで補助件数を増やしました。来年以降については、市の補助金はいろいろなものがあり、この空き家対策の部分だけ増やすのはどうなのかという意見もあるため、検討中ではありますが、同程度になる見込みです。建築士が判定した緊急度の高いものから10件という形で、進めていきたいと思います。

【参加者C】

先ほども話に出ていましたが、大型車の往来が激しいので、星が浦西通を中鶴野中央通りに接続する案や、雄鉄線通（道道釧路環状線）に沿って道路を延長し、道道釧路鶴居弟子屈線に誘導するという案もあると思います。そうすることで、中鶴野から釧路新道に乗ることができ、混雑を緩和できるのではないかと思いますので、検討してほしいです。また、去年の夏に、竜神川でユスリカという小さな虫が大量発生しました。竜神川の下流の方に、土砂がたまって堰のようになっていたり、それで流れが悪くてなっているのが原因ではないかと思っています。流れがスムーズになるように、方策を考えてほしいです。

【都市整備部長】

竜神川についてですが、現地調査をして、市民環境部とどのような対策が取れるか検討したいと思います。

【市長】

都市計画道路は、都市計画法という法律に基づいて決定された道路です。現在46の計画があり、都市計画道路の整備には、早くても5～6年かかります。現在の状況を把握しながら、将来の人口等も考え、進めていきたいと思えます。

【参加者D】

人口の推移について説明がありましたが、2040年になったときに雇用の場は確保できるのでしょうか。また、その時の生産年齢人口（15～64歳）はどのくらいになるのでしょうか？

【市長】

将来予測は目処にはなりません、1年たつと数字が変わります。世界の人口は増えているが、日本は減っています。離農する人もいれば、若者で農業をする人もいます。状況が変われば、若い世代のビジネスチャンスになることもあり、雇用の場が増えることにもなります。ひとつの傾向として、人口の将来推計があります。

【総合政策部長】

人口ビジョンの中の将来の人口推計では、生産年齢人口は平成27年で10万320人、平成52（2040）年で5万2,021人になっています。

【参加者A】

先日新聞に出ていた阿寒川について伺いたいです。

【防災危機管理監】

阿寒川は、北海道管理の二級河川です。現在、水位周知河川になっていないため、北海道の方で浸水予想区域図が作られていません。それができれば、市でもそれに基づいて避難を適切にさせていただくためのハザードマップを作ることができるため、市長から北海道に要望したところです。

【市長】

現実には起こりうることであり、早急に指定していただくよう北海道にお願いしてきました。

【参加者B】

ふるさと納税についてです。根室市は花咲ガニが好評で、納税額が全国10位になりました。釧路市も増えてきているみたいですが、どのような状況ですか。また、公共施設の複合化についても聞きたいです。

【総合政策部長】

釧路市のふるさと納税額ですが、平成28年度は2億9,387万円、平成27年度は4,265万円、平成26年度は937万円でした。当初返礼品の数が少なく、平成28年11月から190品目に増やしました。現在は、192品目に増え、5億円を目標にしています。

【市長】

返礼品は、寄附をもらった方への返礼の意味でしか考えていませんでしたが、商売をやっている方からは、返礼品は地元のものを知ってもらうビジネスチャンスであると言われました。貴重な意見をいただき、感謝しております。

【公有資産マネジメント推進参事】

大楽毛地区の公共施設の複合化についてです。進め方については7月下旬に今の施設の利用状況調査を行い、神馬事記念館の展示など、今後どのような施設にしていくか地域の方々と相談しながらやっていきたいと思っています。緑ヶ岡・貝塚地区では、管理運営をどうするか6月から地域の方々と協議開始しています。大楽毛地区でも、時間はかかると思いますが、丁寧にやっていきたいと思っています。